慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Erwin Panofsky's Early Netherlandish Painting : Its origins and character
Sub Title	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
Author	八代, 修次(Yashiro, Shuji)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1957
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.7, (1957. 12) ,p.121- 127
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00070001-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Erwin Panofsky's Early Netherlandish Painting — Its Origins and Character—

代修次

"Early netherlandish painting"は一九五三年に Erwin Panofsky (The Charles Eliot Norton Lecture, 1947—1948)が Harvard University Press から出版した二冊の大著で、 第一卷の本文は三百五十八頁の主論文の外に一五〇頁に及ぶ詳第十六圖の本文に關係ある殆ど全ての圖版を收錄している。 Panofsky は序文の中で、専門家のために新資料をのみかかげて論じるよりも、「古都市の配置や地勢の概觀を與へ、しかもげて論じるよりも、「古都市の配置や地勢の概觀を與へ、しかも

的に扱つている。この内容を目次に従つてあげると、 中心として彼等以前の畫家や寫本挿繪家から The Master of Flémalle や Roger van der Weyden 等の普通 "Primitives"と呼ばれているネザーランドの十五世紀の畫家達を極めて重點と呼ばれているネザーランドの十五世紀の畫家達を極めて重點と呼ばれている。そして又「その起原と特す」ことが目的であつたと書いている。そして又「その起原と特す」ことが目的であつたと書いている。そして又「その起原と特す」ことが目的であったと言いない。

Introduction. The Polarization of European fifteenth century painting in Italy and the Lowlands

- French and Franco-Flemish book illumination in the fourteenth century
- The early fifteenth century and the "international style"
- 3. Sculpture and panel painting about 1400; The problem of Burgundy
- 4. The regional schools of the netherlands and their importance for the formation of the great masters
- Reality and symbol in early flemish painting: "spiritualia sub metaphoris corporalium"
- "ars nova"; The Master of Flémalle

ò

一番重要な箇所に注目せしめるチチェローネのやうな役割を果

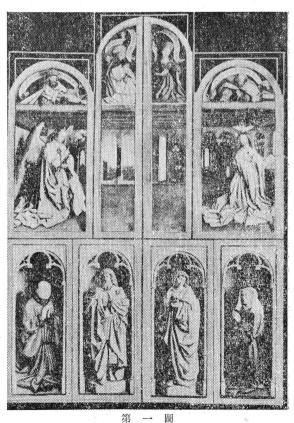
. Jan van Eyck

3. Hubert/or Jan van Eyck;The problems of the Ghent altarpiece and the Turin-Milan Hours

. Roger van der Weyden

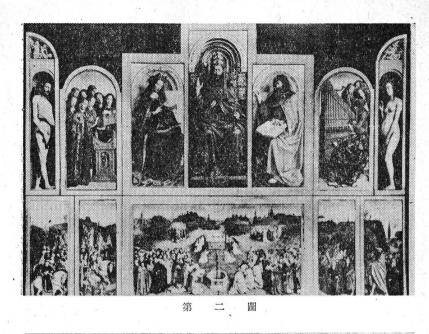
Epilogue. The heritage of the founders 以上である。今これ等の各章にわたつて詳述以上である。今これ等の各章にわたつて詳述の大祭壇書の作者についての Panofsky の綿の大祭壇書の作者についての Panofsky の綿

その上にモノクロームで浮彫風にアベルの犠牲とアベルの殺害



胎告知、下段は洗禮及び福音のヨハネと寄進者の Jodocus Vyd の行列を表わしている。扉を閉めると外側は三段に仕切られていて、上のアーチ型の中に夫々豫言者達をはめこみ、中段には受いて、上のアーチ型の中に夫々豫言者達をはめこみ、中段には受が加えられている。下段では左が騎士と裁判官(後者は一九三が加えられている。下段では左が騎士と裁判官(後者は一九三





○田雨扉を閉じた場合、外側八面の構成を見ると三つの矛盾が

さて、Panofsky が提出した根本的な疑問を箇條書にして示

すと、

ある。(第一圖參照) 側のはアーチ型に木縁を切つてしまつているので重ねた場合 イ、祭壇畫內側の中央板面の頂上が各々アーチ型に描かれて にしつくりとしないこと。 いるが、實際にその木縁は四角である。所が扉を閉じると外

箇所があること。 ロ、各々の板面を圍でいる木緣の縦の線が上下で一致しない

.央の二面はフランドル風の室内器具と窓外風景以外のものが ないこと。 口兩扉を開いて內側十二面の構成にも三つの矛盾がある。(第 ハ、受胎告知は四面に描かれていることになつているが、中

イ、一のロと同じように、その裏にあたる所の木縁の線が一

二圖參照)

致していないこと。

目下して描かれている等の視點の相違を指している。から見上げたように描かれているが小羊の禮讃は上の方から、アダムとイブ、下段の小羊の禮讃等五群を夫々見ると視使、アダムとイブ、下段の小羊の禮讃等五群を夫々見ると視

ハ、ロの空間統一の混亂よりも、

もつと注意すべきことは圖

ること。

像學的に見ても矛盾があることで、上段の姿體が大略等身大に近いのに下段の多數の姿體が極めて小さいと云うことは、古くと云う通例と一致しないばかりか、下段の小羊の禮讃に出てくる聖人達は小さく表わされてもよい俗人ではない。かる故に此處では天と地との對照と云うことよりも、天上にかる故に此處では天と地との對照と云うことよりも、天上にかる故に此處では天と地との對照と云うことよりも、天上にかる故に此處では天と地との對照と云うことよりも、大路等身大

を決定する場合の土臺たらしめようとする比較的重要な觀察をついてのみならず、夫々の關連に於ても後にこの祭壇畫の作者察のために一節をさいている。それは內側の五群を成す板面に容のたが、Panofsky は更に口のハに關連して圖像學的な考明と一、口は祭壇畫の內外の構成や空間統一についての疑問以上〇、口は祭壇畫の內外の構成や空間統一についての疑問

か、主のすぐ傍に着坐すると云う異例の特權が與えられていheiligenbild と看做して、闫當時一般に採用されていた同種のイ、洗禮のヨハネが中央の主と同樣に着飾つている ばか りイ、洗禮のヨハネが中央の主と同樣に着飾つている。

ているばかりか、天使の特徴である兩翼が全然ないと云うこハ、合唱及び奏樂の天使が彼女達だけのための板面に描かれれ、しかも上段に上げられていること。ロ、アダムとイブが主及びその同伴者と一緒の大さで表現さロ、アダムとイブが主及びその同伴者と一緒の大さで表現さ

と。 「恐らくこれは 十五世紀の北歐に於ける 唯一の翼なき天

しての性格しか持たないことになる。難點はこの鳩であり、 連させるならば聖子としての性格をも失い結局は父なる神と 見を持たせることが出來る。次に直ぐその下の鳩と關連づけ ると主は聖靈としての性格を失うことになり、更に小羊と關 をとれた Allerheiligenbild として見れば三位一體の意 ると主は聖靈としての性格を失うとになり、更に小羊と關

若し儀軌の上からも又畫面構圖上からも他の何かが描かれて

面には寄進者が描かれる筈である。恐らく中央の宗教的儀式をことになるであろう。その場合下段は「小羊の禮讚」ではなくて、當時としては古い形式に屬する「聖人達の祭禮」をなくて、當時としては古い形式に屬する「聖人達の祭禮」をは驚くに價しないことだと强調しているのである。本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が一堂に會して來る場本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が一堂に會して來る場本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が一堂に會して來る場本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が一堂に會して來る場本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が一堂に會して來る場本、兎に角小羊の禮讚のように聖人達が別のもので描かれていた。上段、下段で夫々 Allerheiligenbild が描かれていたとになるである。その場合下段は「小羊の禮讚」ではなくて、當時としては古い形式の優活は一次に関している。

れる假說を立てている。 Panofsky は以上の疑問を解決に導くために最も妥當と思わ

かろうか。

とは關係なくとも、特に参加を希望した人達があるのではな

最近の科學調査によつて現在鳩から出ている光線の下層に、なくて默示錄に示されているような Giory があつたとする。回のニで難點としていた鳩の位置に、元來鳩があつたのでは

明らかに拭ぐい取られた"subjacent rays"のあつたことが確められたからである。それ故、この"subjacent rays"の確められたからである。それ故、この"subjacent rays"の確められたからである。それ故、この"subjacent rays"のないだであろう。そうすればならなくなる。この板面は兩扉の板面と高ご糎上になければならなくなる。この板面は兩扉の板面と高さに於て一致していないが故に上、下にもう少し擴がるべきであろう。そうすれば縦横の比例が黄金分割になり均衡がとれる筈である。この理由として上段板面の重さにたえるためれる筈である。この理由として上段板面の重さにたえるためれる筈である。この理由として上段板面の重さにたえるためれる筈である。この理由として上段板面の重さにたえるためれる筈である。この理由として上段板面の重さにたえるためである。そうすれば最初の疑問にからに大線を厚くしたからだと云う外に、この祭壇書が現在置てために少々けずり取られたと考える。そうすれば最初の疑問ために大くい取られた、この様面の重さにたえることが出來るのである。の開閉に都合よくしたものと考えることが出來るのである。

ハネに與えられた盛装と特權の故で、ヨハネは又ガンの本寺でなく獨立の retable であつたろうとする。それは洗禮のヨ年のイとニについて、上段中央の三大板面は元來 triptych

なく寧ろオルガンの附屬品としての板面ではなかつたかとす回のハから見て合唱及び奏樂の天使はこの大祭壇畫とは關係

の守護神でもあつたからだ。

のものと考えてよいと云つている。 があるからで、Panofsky はこれをフローレンスの本寺にあがあるからで、Panofsky はこれをフローレンスの本寺にある。それは他にも翼なき天使が樂師として表わされている例

ものと關連なくあつたものを附加えたとしか思えない。 は、例えば人物と背景との表現法が外側下段の寄進人のそれに、例えば人物と背景との表現法が外側下段の寄進人のそれに、例えば人物と背景との表現法が外側下段の寄進人のそれに、例えば人物と背景との表現法が外側下段の寄進人のそれに、例えば人物と背景との表現法が外側下段の表面の繪の表回の口のアダムとイブについては、内側のどの板面の繪の表

ることが困難である。それ故始めから Hubert によつて樣々のこの祭壇畫が或る一定の計畫の下に製作されたものとして受取壇畫の作者をも區別しようとする。卽ち以上の觀點からすれば

段階のままで残されていた個々の目的をもつた作品を、

當時富

銘のある他の作品と比べて、ガンの大祭壇畫の外側の全部の板えさせて完成したものと考えている。この場合現在する Jan のるために Jan を後接して、残つていた作品を用い或は描き加豪で勢力のあつた Jodocus Vyd が今迄にない大祭壇を作らせ

考えている。左扉の騎士と裁判官の群像には右扉に見るような

Hithert の手に成るものと云えるであろうか。 内側の十二面の中、アダムとイブの二面を除いたものが、一應もつ内側のアダムとイブも彼のものと考えられる。しからば、面が彼の手に成ることは明らかであり、それ等と同じ表現法を

W物に 見られるような 硬化した 姿體をしているのが 目立つ。 ・ たず第一に小羊の禮讚の場面に限つて見ると、場面の遠景を ・ なす擴大な風景の展望と、小羊の祭壇の園にいる Virgin と兩端から其處へ近づいてくる群集に鋭い遠近法が見られるであろ端から其處へ近づいてくる群集に鋭い遠近法が見られるであろうか。

Panofsky はこの前、後景の境の邊を Dvořák の見解を参照して "transitional zone" と呼んでいる。そして後景の都市の展でことのある Jan の手に成るものとし、前景を Hubert のものとして認めようとする。更に右扉の前景をなす隱者や巡禮者の形と岩陰の二人の女性(Magdalen と Mary)とについてもの群と岩陰の二人の女性(Magdalen と Mary)とについてもの群と岩陰の二人の女性(Magdalen と Mary)とについてもの群と岩陰の二人の女性(Magdalen と Mary)とについてもの群と岩陰の二人の女性(Magdalen と Mary)とについてもの群と岩陰の二人の女性は、Jan が背景を描き加えた時に一緒に描いたものとし、二

て見分けられる。しかも鋭い遠近法のあることから Jan が手をても一枚の繪として連續的に描かれていることが馬の脚によついても差程不都合を感じないが、左扉では二面に分けられていいても差程不都合を感じない。例えば右扉が眞中の木縁で分けられて

仕上げたものと考えている。 認められることから、Hubert の計畫に從つて實際には Jan が合唱及び奏樂の天使は 寶石や 器具の表現法に Jan 的な所が 加えただけではなく、彼が始めから構成したものに違いない。

る。何故なら彼がこの大祭壇畫を構成した時に、主の足下と下を加えたものと見ている。それは洗禮のヨハネに似た聖人が下段の前景に認められることにもよるが、主の足下の補石の上に段の前景に認められることにもよるが、主の足下の補石の上に段の下にある殆ど同樣の王冠をJanの手に成るものと考えている。何故なら彼がこの大祭壇畫を構成した時に、主の足下と下を加えたものと見ている。それは洗禮のヨハネに似た聖人が下を加えたものと見ている。それは洗禮のヨハネに似た聖人が下を加えた。

この外 Hubert と Jan の問題に關連して、Van Beuningen Collection の Three Marys of the Tomb や Metropolitan

段の小羊の禮讚との間にある空間をうめるために構圖的關連を

つけようとして描き加えたとするからである。

ンの大祭壇畫に於ける結果と比較しているので今此處に述べるTurin-Milan Hours についても 作者を問題にしているが、ガースの大祭壇畫に於ける結果と比較しているので今此處に述べる

必要もないであろう。

執拗に押し進めるための理論的な裏付けとして縱横に利用して壓倒されることなく自分の目を通して實感した樣式批判を寧ろながら彼が周到なまでに用意した文献や科學調査のデーターに秩序だつた論法はこの大著の隨所に見受ける所である。しかし述べて來たが、作者決定という問題に向つて彼の綿密な考察と以上ガンの大祭壇畫に關する Panofsky の考察を順を追つて以上ガンの大祭壇畫に關する Panofsky の考察を順を追つて

試みているが、煩雑になることを避けてこれには觸れない。 はない。それ故、調査のデーターに基づいて Otto Pächt (Panofsky's "Early Netherlandish Painting"—II, The Burlington Magazine, August 1956) がこの著書に對して反論をlington Magazine, August 1956)がこの著書に對して反論をlington Magazine, August 1956)がこの著書に對して反論を

いる態度が何と云つてもこの大著の最大の魅力である。